



TOPIC 1 | 新型太陽光発電が相次ぐ、条件不利地域でも導入可能に

新たな技術を採用した“新型太陽光発電”の提案が相次いでいる。住宅脱炭素化施策の動向を占ううえで重要になる住宅への太陽光発電の導入を大きく推進しそうだ。

ハンファQセルズジャパンは、日本市場向けで初めてMLPE技術を採用した住宅用太陽光発電システム「Q.SUPREME」(キュー・シュープリーム)の販売を11月から開始。MLPEとは、太陽光発電の出力をパネル1枚ごとに最適化できる技術のこと。一般的には、太陽光発電パネル全体のうち影などの影響で一部のパネルで出力が低下した場合、パワーコンディショナーが出力の低いパネルに合わせてパネル全体の出力を制御する。結果、出力が高いパネルの発電能力が抑制され発電ロスが生じる。一方で、MLPEを導入した太陽光発電システムであれば、パネル1

枚ごとに出力制御を行うため、発電ロスを抑えられ、発電効率を最大化できる。例えば影が一部のパネルに掛かる程度であれば、十分な発電量を確保できる可能性がある。

透明ガラスによる太陽光発電の提案も出てきた。NTTアドバンステクノロジーは、SQPV (Solar Quartz Photo voltaic) 技術を活用した無色透明発電ガラスの販売を開始した。SQPVは非可視光である紫外光と赤外光を吸収し発電する技術。同社では一般のガラスが使える全ての用途に利用できるとしており、住宅への採用も可能。既存住宅に内窓として設置すれば、太陽光発電と断熱リフォームを一度に行える。

既に学校へ内窓としての導入を開始しているが、窓取り付け技術については、YKK APが協力している。

TOPIC 2 | 長期優良住宅の認定基準、省エネはZEH水準に

国土交通省は9月16日、「長期優良住宅認定基準の見直しに関する検討会」の第2回を開催、長期優良住宅の認定基準の改正案の議論を行った。省エネでのZEH水準への基準引き上げや、共同住宅での面積基準の緩和などを行う方針だ。

改正案では、認定基準のうち省エネ性に関して、“ZEH水準”に引き上げる方針を示した。具体的には、住宅性能表示制度で、ZEH水準の省エネ性能を評価するものとして、「断熱等性能等級5」と「1次エネルギー消費量等級6」といった上位等級を新たに創設。そのうえで、長期優良住宅認定の省エネに関する基準として、新設の「断熱等性能等級5」と「1次エネルギー消費量等級6」を設定する考えだ。なお、住宅性能表示制度でのZEH水準の新たな上位評価等級については、9月中にもパブリックコメントに掛ける。

共同住宅の床面積基準の緩和も図る。現行基準で共同55㎡以上(2人世帯の都市居住型誘導居住面積水準)を求

長期優良住宅認定基準(省エネルギー対策)

	断熱等性能	一次エネルギー消費量性能
現行基準	住宅性能表示の等級4 (U _A 値 0.87以下) ※6地域の場合	なし
改正案	住宅性能表示の等級5 (U _A 値 0.60以下) ※6地域の場合	住宅性能表示の等級6 (BEI 0.80以下) ※省エネ基準▲20%

めている住宅の床面積について、40㎡以上(1人世帯の都市居住型誘導居住面積水準)に緩和するとした。単身世帯向けなどの小規模な共同住宅などでも長期優良化を進めていきたい考えだ。また、共同住宅については、評価方法も見直す。現行では住戸ごとに認定・評価されているが、住棟全体で認定できるようにしていく方針。

長期優良住宅の認定基準の改正案については、12月に開催する次回の検討会で、具体的な施行の実施スケジュールなどを検討する予定だ。

今知りたい情報がここにある
住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium
ハウジングトリビューン オンライン プレミアム
https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/